



# 第 1368 回例会報告

平成26年6月12日(木)晴

## 会長挨拶

会長 平山隆勇

### クラブが縮小する理由

第29期もいよいよ今月限りとなりました。例会が残り3回となった今頃になって、例会で何をお話しさせて頂こうか悩むことが多くなりました。

みなさんのお陰で考えていたより多くの新入会員を迎えることができた一方で、残念ながら2人目の退会者がでてしまいました。病気が退会理由であり、私はそのことを一番よく知っていますので、回復して頂けなかったことが残念でなりません。そして出席が難しい状況の中でも復帰を目指し、会員資格を継続して頂いていたことに対し、心から感謝と敬意を表する次第です。

今回の様に本当に病状が悪く、心ならずも退会される方がいらっしゃる一方、「不況」や「年齢」また「病気」を表向きの理由としていながら、実は「ロータリーに魅力を感じなくなった」、或いは「ロータ

リーに入っているメリットがなくなった」というのが本当の退会理由であるという場合も結構多いと言われています。

今期折角入って頂いた新会員に対し、私達先輩会員全てがロータリーの魅力やメリットを感じてもらえるように努力する義務があると思います。何故なら、私達はロータリーの魅力やメリットを享受してきたからこそ、今ここに残っているからです。

統計によると、1990年代の後半から世界中のロータリーで会員減少が始まっています。私達諏訪湖RCでも1997年に会員数が初めて60名を割り、その後少し盛り返した時期もありましたが、2003年にはとうとう40名を割り、現在も40名を回復するには至っておりません。

先月のロータリーの友に、『クラブが何故縮小するのかわからない？ 以下の質問について考えてみましょう』というページがありました。それは①例会の時間、形式、場所は、家族のいる会員や、キャリア形成期にある若い職業人にとって都合の

#### ■出席報告

会員数	37名
出席対象	36名
出席者数	27名
出席率	75.0%
前回修正	80.6%

#### ■ニコニコBOX

23名	27,000円
累計	1,138,000円
目標額	130万円
達成率	87.5%

#### ■今週のことば

蒲地君に「まだご存命でしたか」と「言われましたが、おかげさまで69歳。誕生日を迎えられそうです  
長崎政直  
患者さんがピアノカを持ってきてくれました。その中に船賃も入っていました。感激しました。

溝口幸二  
昨日第64回「社会を明るくする運動の法務大臣メッセージ」を、長野県知事に伝達して来ました。  
この運動は法務省が主唱する国民的運動です。犯罪や非行のない安心・安全な地域づくりをめざす運動です。  
ロータリアンの皆さんにもご理解とご協力をお願いいたします。  
小林聖仁



よいものですか？ ②クラブは、地元地域の年齢、性別、職業の多様性を反映したものになっていますか？ ③クラブのプログラムは、誰の関心を反映したものになっていますか？ ④例会中、儀礼的なことに時間を費やし過ぎて、講演、話合い、プロジェクトの計画、ネットワークづくりの時間が犠牲になっていませんか？ ⑤クラブは例会を訪問したゲストに対して、後日必ず連絡を取っていますか？ という五つの質問事項です。耳の痛い内容もありますが、今後のクラブ運営に参考になることも多いと思い紹介させて頂きました。私達も真摯にこの質問に答えてみましょう。

## 重要なお知らせ「内規変更について」

### クラブ奉仕委員会

本日諏訪湖RCの細則・内規・会計内規・浄化基金内規の改正について、文書にて配布いたしました。本日の例会で周知し、6月26日に改正となりますのでご承知おきください。

レターボックス内を確認し必ず内容を見てください。

## 第 1368 回例会

### 米山留学生卓話

#### 青少年奉仕委員会

本日の例会は、諏訪クラブが世話人となっており、米山奨学生・王玉洪さんをお迎えし卓話をいただきました。



初めて就職活動の話聞いたとき余りピンとき

ませんでした。特に自己分析、自己PRを考えるように書いてありましたがそれが何を意味するか分かりませんでした。自分は何をしたいのか何に向いているのか発見できなかったのです。自分は日本に来る前に中国の大学にいました。その時の専門分野は生物でしたが、生物の分野は中国では生かすことができません。日本へ留学の話が出たときも、特にしたいことがはっきりはしていませんでしたが、日本語ができれば何をするにしても役立つだろうと思い、中国の大学をやめて来日しました。

何をしたいかはっきりしていないのに「通訳者なら仕事はいくらでもあるだろう」と甘い考えだったのです。日本にいる中国の留学生はものすごく多く、通訳できるだけではとても足りないということの後日思い知らされたのです。

私は勉強しながら諏訪の製造工場でアルバイトをしていました。その主な仕事は検査でした。その会社は大連に子会社があり、ある時クレームの翻訳を頼まれたのですが、その頃の私の力では日本語に翻訳することができませんでした。休憩のときあわてて辞書で調べて、わからなかったのが「メッキ」という意味だったのを今でもはっきり覚えています。学校で習う言葉だけでは足りない、いろいろな知識も必要ということです。

検査の仕事の中で、6時間検査しても不良が1個しか出ないとか、何も出ないことがありました。非効率に感じそうしたことを考える学問をしたいと思いました。現在学校で「統計学」のゼミに入り学んでいます。

勉強の中から中国に工場を持つ会社に入れば私の力を生かせるのではないかと思いました。諏訪地方の企業に就職したかったので1次試験で落ちた会社もありましたが、茅野の会社から4月末に内定をもらえて大変うれしく思っています。

中国に「失敗は成功の元」という言葉があります。私もいくつか失敗をしましたが、なにより日本へ来て自分のやりたいことが見つかったことが一番うれしいです。

最後に米山奨学生になりロータリアンの皆さんと知り合えたことが何よりの喜びです。このことは一生忘れません。